

前橋バラ組合が都内の主要花き市場の仲卸店舗でフェア開催！ 生産者自らが買出人などへ売り込み

年末に向けてバラの需要も一層多くなる時期となりますが、本県の主要なバラ生産組織である前橋バラ組合*では都内の主な花き市場の仲卸店舗にて産地フェアを開催し、多くの買出人に向けて産地や生産の様子、こだわりの品質管理などをPRしました。

前橋バラフェア

- 月日・場所 / 11月10日(金)・世田谷市場(仲卸:㈱千政)
11月24日(金)・大田市場(仲卸:㈱プランツパートナー)
- 内容 / 生産者自ら買出人などに向けて産地紹介や品質管理など生産へのこだわりを紹介しながらPR販売を実施

*前橋バラ組合：生産者10戸、施設面積約12,000坪、出荷量約340万本/年

共選共販による安定品質に加えて、生産者の顔を紹介しバラにさらなる付加価値を

平成28年より組合運営の主体を後継者世代へ交代した前橋バラ組合では、その数年前から毎年継続して都内の出荷市場（大田、世田谷）にて産地フェアを実施してきました。今年も当組合産のバラを多く扱う仲卸業者(株)プランツパートナー、(株)千政と連携し、店舗を構える大田及び世田谷の両花き市場にて、生産者自らが外向き産地フェア「前橋バラフェア」を開催しました。

大田市場でのフェアでは生産者7名が早朝4時から1400本140束の販売に取り組み、大きなかけ声で呼び込みながら、訪れるお客と熱心に情報交換し産地を売り込みました。お客の中には「大田でも世田谷でもプランツパートナーで前橋のバラをよく買っている」という方もおり、当組合の品質の高さ、そして評価の高さを実感する場面も見られました。また、(株)プランツパートナーでは昨年からの取り組みとして、生産者ごとに顔写真と生産品種をまとめたパネルをバラの陳列とともに設置し、単なるバラとしてだけではなく“産地や生産者が見え、そして生産への思いなどもバラの付加価値となれば”という意味を込めて販売されました。(写真)



前橋バラフェアの様子（プランツパートナー）



各生産者を紹介

「使って安心・安全」がモットー

県内屈指の先進的なバラ生産・出荷に取り組む

市場関係者などからよく聞かれる前橋バラ組合の売りは「安定感」です。生産技術はもちろんのこと、当組合の特徴でもある第三者(生産者ではない)による厳しい選花選別は当組合のモットーである「使って安心・安全」を実現し、取引先との信頼関係を築く大きな要因となっています。また、このようなフェアの開催を可能にする産地と仲卸業者とのつながりを強くする要因でもあると考えられます。

そして、当組合では昨年の炭酸ガス施用機に続き、今年3月には湿度を管理するドライミスト装置の導入が行われました。出荷体制だけでなく県内屈指の設備と生産技術が整うこととなり、乾燥が厳しい本県で初めて迎える今冬での効果が期待されます。

現状は日照不足による品薄高！夏の単価安を取り返せるか

現在市場では8月及び10月の日照不足により例年に比べてバラの入荷数量が少ない状況が続いており、一方で11月は日の並びが良かったこともありプライダル関係が好調となっていることから、白色を中心に単価高で推移しています。

生産者からは「単価が高くて数を出して売上げをあげないと意味が無い。7月や9月の単価安の分をどれだけ取り返せるか...」と今後の動向を注視するとともに、一方で営業努力やさらなる技術研鑽による厳しい現状の打破に向けた情熱が聞かれました。



早朝からフェアを実施した7名の前橋バラ組合員